

京丹後市地域公共交通計画（抜粋）

令和 6 年 3 月策定（令和 7 年 2 月一部改訂）

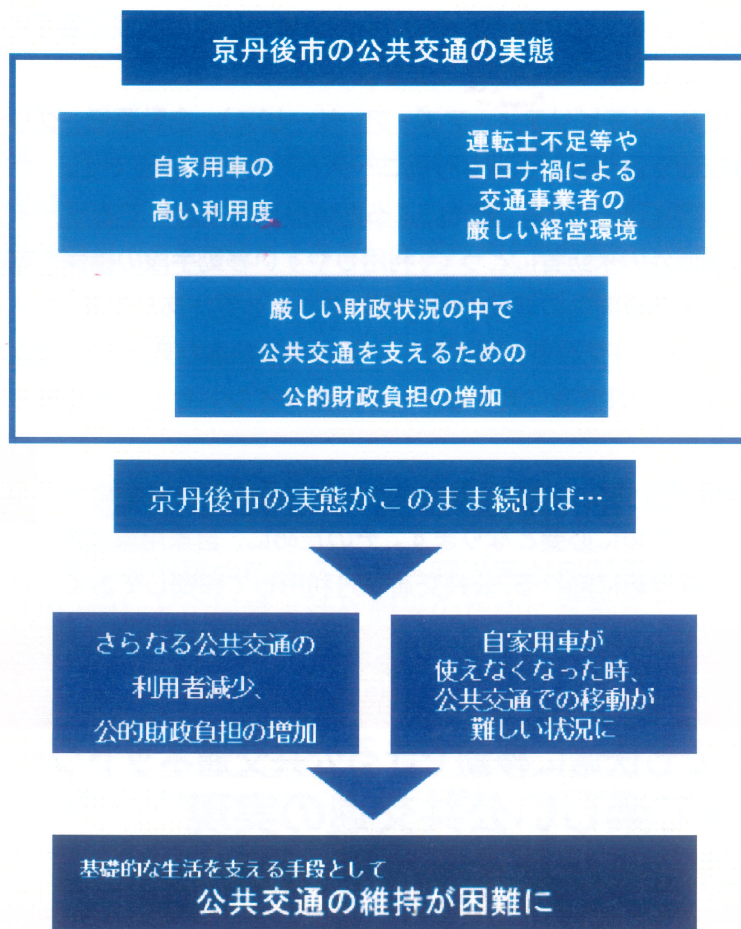
3. 基本方針・目指すべき将来像

（1）基本方針

アンケート調査や事業者へのヒアリングなどにより、自家用車の高い利用度、交通事業者の厳しい経営環境、財政負担の増加など圏域における公共交通の実態やニーズが浮き彫りとなりました。

このような状況が続けば、さらなる公共交通の利用者減を招き、財政負担の拡大や運行本数の減便という結果を招きます。また、今まで自家用車ばかりで、公共交通を使ってこなかった方が、いざ自家用車を使わなくなった時に、公共交通の使い方を知らないがために、公共交通での移動ができないという状況に陥る可能性があります。

結果このような状況に起因して公共交通の利用者減→財政負担拡大→減便という負のスパイラルに陥り、最終的には公共交通の維持が困難になってしまいます。



自家用車に過度に頼ることがないように公共交通の利用機会を増やし、公共交通利用への転換と満足度を高めることが必要

(2) 目指すべき将来像

こうした中、自家用車に過度に頼ることなく、公共交通利用者の満足度を高めるとともに、利用機会などをつくりながら、公共交通へのマインドセット（固定観念）を転換していく必要があるとともに、来訪者にとっても移動しやすいまちづくりが求められていることから、3つの施策目標のもと、自家用車に過度に頼らなくても、市内をストレスなく移動ができる、持続性の高い交通ネットワークを形成することにより、快適な移動ができるまち「地域自らデザインする便利で持続可能な公共交通」を目指します。

基本方針・目指すべき将来像

地域自らデザインする便利で持続可能な公共交通

<目指すべき将来像の実現に向けて>

- ①持続可能な公共交通とするためには、鉄道や幹線バスを中心として、交通空白地有償運送、mobi（AIオンデマンドモビリティ）など地域実情や特性に応じた地域内交通を確保・維持するとともに、さらなる満足度の向上や適切な利用者負担の意識醸成に資する取組によって、使いやすい移動手段としていく必要があります。
- ②ライドシェア、MaaS（モビリティ・アズ・ア・サービス）、自動運転、グリーンスローモビリティなどの先進技術を活用した多様な移動ニーズへの対応も必要です。
- ③観光客が多い本市においては、観光による地域振興を推進しており、インバウンド等の長期滞在者を含む圏域外の来訪者にとって、利用しやすい移動手段の確保や市内周遊性の向上による、観光誘客の地域経済への波及効果を高めていく必要があります。
- ④日々を過ごす中で公共交通を利用されている方の満足度が向上する取組を進め、自家用車に比べ不便といった、公共交通に対するマイナスのマインドセットを転換していく事が必要となります。
- ⑤自家用車の運転ができなくなった時でも、公共交通の使い方を知っていることが、自分が交通弱者にならないために必要となります。そのために、自家用車ばかりに頼るのではなく、今から少しでも公共交通に触れる、公共交通「も」利用して移動しておくことが大切になります。

目指すべき将来像の実現に向けた3つの施策目標

1. だれでも快適に移動できる公共交通ネットワークの構築
2. 乗って楽しい公共交通の実現
3. 移動総量が高まる公共交通の実現

4. 具体的な施策

本計画における基本方針に沿って、目指すべき将来像を達成するために、「だれでも快適に移動できる公共交通ネットワークの構築」、「乗って楽しい公共交通の実現」、「移動総量が高まる公共交通の実現」を計画の目標として取組を推進します。また、各施策の内容、実施主体、スケジュール、取組にあたっての課題を以降に示します。なお、スケジュールについては、関係機関との協議が整い、実施の準備が整った施策から順次実施するものとします。

目標1 だれでも快適に移動できる公共交通ネットワークの構築

公共交通ネットワークの縮小やサービス水準の一層の低下が懸念されている。一方で地域公共交通は、特に自動車を運転できない学生、高齢者等にとって必要不可欠な存在であり、活力に満ちた地域社会の実現に寄与するため、多極型ネットワークによるまちづくりと連携して、地域公共交通の活性化のための取組を展開します。

方策1	路線バス等の維持のため運行体制等（車両・運行経路・ダイヤ等）の見直し
方策2	交通結節点での乗り継ぎを考慮した運行ダイヤの調整
方策3	MaaS などシームレスな公共交通ネットワークの構築
方策4	ささえ合い交通・mobi の他エリアへの展開検討

目標2 乗って楽しい公共交通の実現

高齢者をはじめとする市民や市内へ訪れる観光客が自家用車に過度に頼らなくても、通院や買い物などの日常生活や観光のために移動ができ、使いやすく分かりやすい、乗って楽しさを実感できる取組を展開します。

方策5	公共交通の利活用についてのイベント開催・情報発信
方策6	待合施設の環境整備（Wi-Fi や多言語表示の整備など）
方策7	幅広い年齢層を対象とした公共交通のお試し乗車会等の実施
方策8	運転免許証返納前の段階における高齢者の利用促進

移動総量が高まる公共交通の実現

本市で自家用車に頼り過ぎなくとも移動可能となるように、街づくりや観光などと連携した利用しやすい移動手段となる公共交通を実現するための取組を展開します。

方策 9	公共交通による周遊観光ルートの検討
方策 10	医療や公共施設等への効率的な運行ルートの検討
方策 11	ファーストワンマイル・ラストワンマイルの確保
方策 12	多様なモビリティの活用に向けた検討・実装へチャレンジ
方策 13	公共交通事業者の人材不足の解消